

平成30年度 室蘭市地域包括支援センター運営協議会会議録（要旨）

日 時 平成31年1月30日（水） 午後6時30分～午後7時45分

場 所 室蘭市役所2階大会議室

出席委員：野尻会長、山中委員、藤田委員、

地域包括支援センター長：井脇氏、山下氏、竹村氏、鷺津氏

認知症初期集中支援チーム員：鳴海氏・田中氏

事務局：舩田課長、本野〔地域包括ケア推進〕主幹、花島主幹、大谷介護認定係長、
那須原主査・今野主査、木村主事

報 道：室蘭民報社

1 会議次第

【議題】

- (1) 室蘭市地域包括支援センター運営状況について
- (2) 室蘭市認知症地域支援推進員活動状況について
- (3) 室蘭市認知症初期集中支援チームの実績報告について
- (4) その他

2 議事の概要記録

<開会>

会長挨拶

地域包括システムの構築にむけて、この会は非常に大切な会議です。十分に協議頂き、この地域にふさわしいシステムを築いて行きたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

委員・地域包括支援センター長・認知症初期集中支援チーム員・事務局自己紹介

【議題】

(1) 室蘭市地域包括支援センター運営状況について ～資料1

行政説明

資料に基づき運営状況について説明

会長

ただ今の事務局説明について、ご質問等ございませんか。

委員：高齢化社会が進行する中、いろいろなトラブルの報告があります。包括支援センターは非常に頑張っておられるが、この先業務量は増加するものと思います。介護給付費や認知症は減らせるのかという課題にむけ、色々な省庁から提案されているのは老人の活動を活性化しようということです。全国的なデータをみますと、老人クラブが活性化されているところは介護保険の給付や認知症が減少してると言われています。これからの社会保障費のことを考えると、この分野をどのように活性化するのか？また包括支援センター等と連携して、給付を減らすことで、包括支援センターの業務へお金を回して、業務を増やすことができるのではないかと考えますが、いかがですか？

事務局：昨今、高齢者数は増えているのに、老人クラブの加入数は減っている、クラブ数も減っているという状況の中で、高齢者相談の最初の窓口である包括支援センターから加入を促す、弱る前の元気なうちからかわってもらうことも必要な視点と考えています。業務量が増えると包括支援センターへの委託料も見直す必要があるため、計画策定年度の節目で見直す予定です。包括支援センターとも連携を図りながら、老人クラブへの支援を検討していきたいと考えております。

委員：保険料や認知症を減らす取り組みの中で浮いたお金を適正にまわす仕組みを行政として考えて頂きたい。

会長：日常診療をしていると、独居老人が非常に多くてその把握はどのようになされているのか？お子さんが地方から見に来られて、冷蔵庫の中を見たら全部腐ってる、色々な物が整理されていない、お金の管理もできていないことがわかる・・・
そのようなケースが増えている中で、包括支援センターはどのような活動をしているのでしょうか？

包括所長：独居老人の方は実際増えており、孤独死なども出て、独居・高齢者世帯、核家族化が進んでいることを実感しています。包括支援センターはすみやかに対応する相談しやすい機関として認知されなければならないと思い、介護予防教室などで地域に出向き、包括支援センターの周知をしていこうとやっていますが、認知が低いということも耳にしていますので、来年度は幅広く周知していくことを検討しています。一方で総合相談は年々増加しており、民生委員や病院からの相談件数も増えていますので以前より周知は進んでいるとも思っています。

会長：8050問題についてですが、このような家庭の全体像の把握は行政ではどのようになされているのでしょうか？

事務局：8050 問題や独居の方の把握については、毎年 6 月 1 日を基準日に高齢者実態調査を実施しています。民生委員に各家庭 1 件 1 件をまわってもらい、調査しています。8050 の場合、都会で働いていた息子・娘がいつの間にか帰ってきて同居しているというケースがあります。娘・息子が親の年金にぶらさがっている形になると、親も同居を申告しない場合もあり、家庭で隠されると、なかなか発見しにくい場合もありますが、民生委員さんには世間話からそのようなニュアンスなどから把握に努めていただいています。

(2) 室蘭市認知症地域支援推進員活動状況について ～資料 2

行政説明

資料に基づき活動状況について説明

会 長

ただ今の事務局説明について、ご質問等ございませんか。

委 員：徘徊搜索模擬訓練は地域で非常に良い形で実施できていると思いますが、課題はどのようにとらえているのでしょうか？また訓練の時間帯ですが、夕方や夜間・早朝など危険が高いと思いますが、どうお考えですか？

包括所長：認知症地域支援推進員も兼務しております。徘徊搜索模擬訓練は現在は地域の集まれる方に参加してもらい搜索を体験することを目的に実施しておりますが、実際に地域の中で徘徊者が出たときに、具体的な連絡体制は構築されておられません。まずは市全体で搜索時の連絡体制の整備を検討したいと考えています。またご指摘のあったとおり、現在の訓練では日中や季節も暖かい時期などの搜索のしやすい環境で行っています。現在は 4 つの包括圏域で年に 1 回のペースで実施し、色々な地区の人に体験してもらいたいと思いますが、一通り実施した後は時間や季節など別な想定で企画していきたいと思います。夜間の搜索は本当に難しいので、暗くなる前にできるだけ早く通報するように住民に伝えています。

事務局：徘徊搜索模擬訓練は認知症について知ってもらう、搜索のポイントを知ってもらう、「あれ、おかしい？」と思ったら声をかけるということを体験するような目的で行っており、参加者のアンケートではよくわかったと高評価をいただいておりますが、実際の搜索とはギャップもあるので、そこを埋めることや、連絡体制について課題と認識しています。今後警察・包括支援センター・市とで打ち合わせ会議を実施し、課題につい

て検討し、次年度以降の訓練に反映させる予定です。また訓練の時間帯ですが、参加者の大部分が高齢者ですから、参加者にも危険がないよう、警察とも相談のうえ、検討したいと思います。

委員：胆振東部地震の際、今までの訓練では十分ではなかった経験から、市民全体にも危機管理をもってもらよう周知していかないといけないと考えています。全市的な取り組みとして、是非に普及啓発に取り組んで欲しいと思います。

委員：認知症というのは家族の人が教えたがらない傾向が強いが、徘徊があっても町会に知らせておくと、協力ができると思うのだが。自分の経験からも周辺の住民にお願いしておいたところ、目を離していなくなった時に連絡が入った。包括支援センターや民生委員なら異変に気づき、町会等にその情報を知らせてくれたら協力できるのだが・・・個人情報の問題があるので、なかなか難しいのはわかるが・・・。

事務局：個人情報が一番問題になるのだが、本人や家族の同意が得られれば、地域で見守る体制もとれるので、できるだけ同意を得て地域で見守る体制を進めていきたいと考えています。

委員：閉じこもりが問題になっているため、一人で暮らしている人をできるだけ引っ張り出そうと、声がけしている。1回出て楽しいとわかれば次の参加にも繋がっている。町会と一体になってやっていけると良いと思います。

委員：災害弱者の立場に立つと、実は95%の人が情報を開示したい、助けて欲しいと考えているという結果が出ているそうです。ところが行政サイドは個人情報を尊重しすぎるところがある。同意が必要なため、ある自治体では契約という形で実施しているところもあり、システム作りが必要と思いますが、いかがでしょうか？

事務局：おれおれ詐欺など、ごくわずかなケースで被害にあうこともあるので、全くガードなしに個人情報を出すことは難しいと考えますが、砂川モデルなども参考に、地域で支える取り組みは進めていきたいと考えております。

会長：知り合いに身元を示すものを持たずに徘徊し骨折をして救急病院に運ばれたが、丸一日探すことができず、警察対応もしてもらったのだが、わからないことがあった。このような場合、行政や包括支援センターの窓口はどのようになっているのだろうか？救急から問い合わせが来た時に、対応してくれるシステムはあるのでしょうか？

事務局：システム化まではされていないが、警察で身元不明者を保護した場合などは、発見場所や身なり、身体的特徴などから、該当者を割り出すように、情報を集めています。警察からは市や包括支援センターに問い合わせが来ているますが、救急外来等には窓口が十分に周知されていないと思われます。

(3) 室蘭市認知症初期集中支援チームの実績報告について ～資料3

行政説明

資料に基づき、実績報告について説明

チーム員により事例 3 例を紹介

会 長：非常にスムーズに対応がなされていると感じますが、スムーズに対応できる秘訣などあるのでしょうか？

チーム：初回訪問は本人がわかる包括支援センターの担当者に同伴してもらうので、警戒心が低いのだと思います。あと看護師という職種のため警戒が少なく、血圧や脈拍を測り馴染んでいくのではないかと思います。最初は週に 2 回程度の高頻度で行くことで、独居のさみしさから「来て下さい」に変わり、初期集中支援チームのフレキシブルさが利点となっていると感じます。

会 長：チーム医はベテランの先生なのですか？

チーム：院長です。

会 長：資料説明で拒否件数 1 件とありますが、これはどういうことでしょうか？

チーム：包括支援センターから情報が来た段階で 1 件となりますが、1 度は承諾した後、時間をおくと、やっぱり止めたというケースがあります。

会 長：その後のフォローはどうなりますか？

チーム員：包括支援センターのフォローとなります。

会 長：非常にご苦労されたケースはありますか？これはにっちもさっちもいなくな

った時の対応はありますか？

チーム員：チーム員会議が月 1 回あり、包括支援センターや介護事業所の方から意見をもらったり、次の手を一緒に考えてもらうこともあります。拒否してもまた時期をずらすと受け入れてくれたり、本人の様子をみながら調整していきます。

委員：なかなか聞いてくれない人にもどうやって聞いてもらうかということなんだろうけど、誰がキーマンで、どう捕まえるか、タイミングが大事ですね。身内っていいようで、あまりよくないところありますよね。2025 年になると 75 歳以上が 4 人に 1 人、認知症の人も増えて、財政大丈夫かなって心配になります。皆さんの苦勞に見合う対価を考えないといけないと思いますがどうですか？

事務局：人・物・金は状況に応じて用意が必要と認識していますので、状況をみながら、できるところからやっっていこうという頭はあります。

会長：他にありませんか。ではこれで議事を終了いたします。

< 閉 会 >

以上をもちまして閉会いたします。